

婦人農作業衣に関する研究 (第1報)

東海地区における農作業衣の実態について

古川智恵子・堀 逸 子

Working Clothes of Female Farmers (I)

Working Clothes in the Tokai Area

Chieko FURUKAWA and Itsuko HORI

緒 言

わが国の婦人用農作業衣の昭和初年度以来の変遷をみると，“図1”に示すごとく，この半世紀の間に古来の和服式のものから，現在の洋服式のものまでかなりの改善，進歩のあとがみられる。

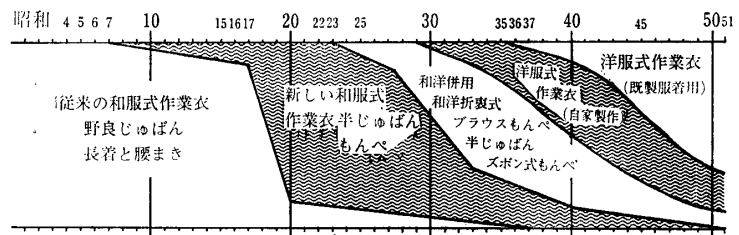


図1 婦人農作業衣の変遷

すなわち，昭和10年頃までは各地の農作業衣には明確な地域差が見られ，名称も郷土的，個性的なものが多かった。形態の特徴は大別して，関東以北の場合，上半衣は衿なしの半じゅばん形態，袖は筒袖もしくは細袖であった。また，下半衣は股引・もんぺ等に代表される膝から下がびったり密着する形態で，上下二部のツーピース型である。

これに対し下半衣は腰巻を出し，足にきゃはんをつけるといういわばワンピース型ともいえるものである。

しかし，これらの形態も昭和10～20年にかけて各地域ごとに明らかに変化が見られ始め，特に関東以西において長着物・腰巻形態から，上半衣を標準衣または活動衣とよぶ半じゅばん形態，下衣はもんぺの上下二部式に移行した。関東以东においても同様に標準衣・活動衣の着用が加わった。

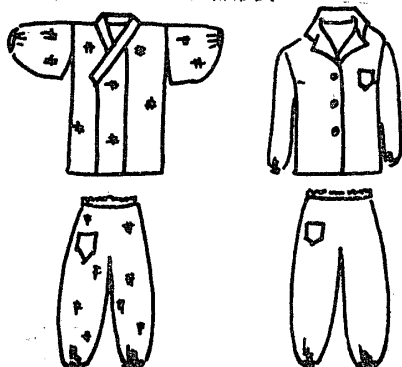
次に，戦争終了後の20年から30年の間は余り大きな変化はみられない。しかし30年から40年にかけて急速に和洋併用あるいは折衷形態が増え，ズボン式もんぺ等ズボンの長所を採用した特色ある下半衣が着用されている。40年以降は全地域に洋服化が進行し，さらに既製作業衣も加わり，農村婦人作業衣の地域性は消滅し，代って画一化が進み，潜在的ユニホーム化のきざしが見え，現在に至っている。

以上の歴史的変遷から明らかなように今日，婦人農作業衣として種々の形態，材質のものが販売され，全国各地の農村において着用されているが，これらは農作業衣としてデザイン，機能性等の面で必ずしも完璧なものとは考えられない。本報はこれらの観点から，東海地区を対象として婦人用農作業衣の実態を調査し，さらにはその改善の一端にしようとする。

農作業衣に関する実態調査

Q 1. 農作業衣の形式についておたずねします
現在着用している作業衣はイ図かロ図か
その他であればハに記入して下さい。

イ図 ロ図 ハ
上衣はきもの 上衣はブラウス その他
下衣はもんぺい 下衣はもんぺい
の二部形式 の二部形式



Q 2. 現在あなたが着ている作業衣でどんな箇所
が着にくいですか。具体的に書いて下さい。

- 1.
- 2.
- 3.

Q 3. 作業衣の材質について
着用している作業衣・補助衣の材質は何
が多いですか。該当する箇所に○印を記
して下さい。

		作 業 衣							
		もんぺい		上 着		長袖ブラウス		半袖ブラウス	
材 質	田 植	木綿 紬	ビニロン 混紡	ジ ー パン	木綿 紬	ビニロン 混紡	テトロン	ナイロン	アセテート

		補 助 衣																
		はきもの																
材 質	田植	綿入殿中	綿入はんでん	裕はんでん	割ばうエプロン	前か	地下	運動ぐつ	ゴム長ぐつ	素足	麦わら帽子	布製帽子	手拭	手袋	手甲	脚絆	ソックス	長靴

Q 4. 作業衣の損傷について
作業衣はどこが一番傷みやすいですか。
あなたのしている作業で傷みやすい順に
番号を書いて下さい。

上 衣		下 衣	
衿折り山		ひ ざ	
袖 口		居 敷 当	
ひ じ		す そ	
肩		内 また	
(その他)		(その他)	

Q 5. 作業衣の傷みやすい理由はなぜだと思
いますか。簡単に書いて下さい。

- 1.
- 2.
- 3.

Q 6. 作業衣の購入について
作業衣を購入する場合どのような方法で
購入しますか、また着古したふだん着を
着用する場合、該当する箇所へ○印を記
して下さい。

	作業衣の買い方					着古したふだん着をきているもの				
内 容	共同 購入	商店で 買う	農協で 買う	行商で 買う	もん ぺい	ブラ ウス	セー ター	殿 中	割 ぼう エプロ ン	エ プロ ン
○印										

Q 7. 作業衣を購入する場合どのような事に
一番重点をおいて買いますか。
重点をおく順に番号を書いて下さい。

- イ. 形 () ニ. サイズ ()
ロ. 色 () ホ. 値 段 ()
ハ. 材質 () ヘ. その他 ()

方 法

質問紙法によるアンケート方法とききとり方法により実態調査を行った。

1. 調査期間：1975年6月～8月
2. 調査場所：愛知・岐阜・三重を主とする地域と静岡，山梨などの地域
3. 調査対象：短大家政科被服コースの学生の家庭及びその近隣地域と親戚の農家の婦人
4. 調査用紙は“図2”に示すとおりである。

結果および考察

1. アンケートの回収状況

アンケート配布部数は500部であり，回収率は87%であった。地域別の回収率を“図3”に示す。愛知は39.5%，三重は29.3%，以下岐阜，静岡，その他の順であった。

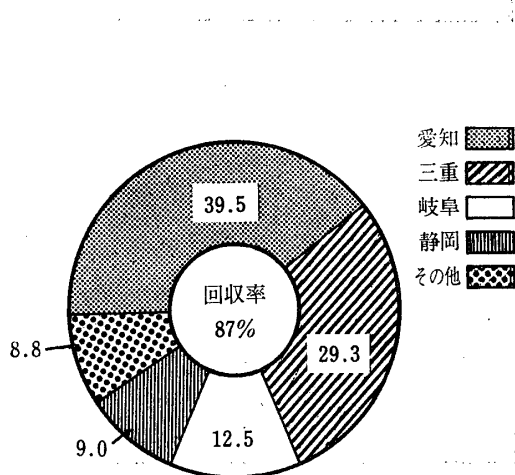


図3 アンケート回収状況

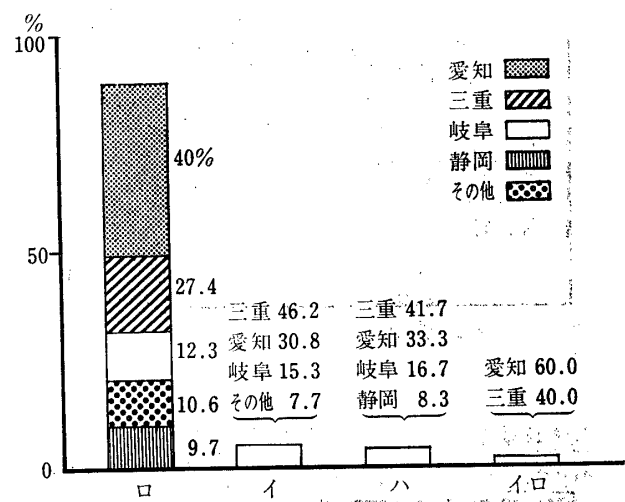


図4 作業衣の着衣形式

2. 回収結果の解析

1) 作業衣の着衣形式について

作業衣の着衣形式の調査結果を“図4”に示す。

(1) 最も高率を示しているのは(ロ)の既製作業衣であり，約88%をしめている。県別による割合は愛知が40%で最も多く，次に三重が約30%，岐阜12.3%，その他10.6%，静岡 9.7%である。

(2) 次は和服二部形式の(イ)であり，わずか5%である。(ロ)に比べ，比較にならない程低率であった。この形式は以前はよく見かけたが，最近は洋服形式に押され，あまり見かけなくなった。

(3) 次は(ハ)であり，4.7%である。これは図(イ)，図(ロ)以外の作業衣である。たとえば，

- ① 古着のブラウスにスラックス

- ② Tシャツに古着のジーンズ
 ③ 古着の男物カッターシャツにスラックスというように、古着を有効に活用しているものである。
 (4) 図(イ), 図(ロ)を組合せて着用しているものは2%である。
 2) 田植及び苗とり時の作業衣
 “図5”に調査地域の田植及び苗とり風景を示す。

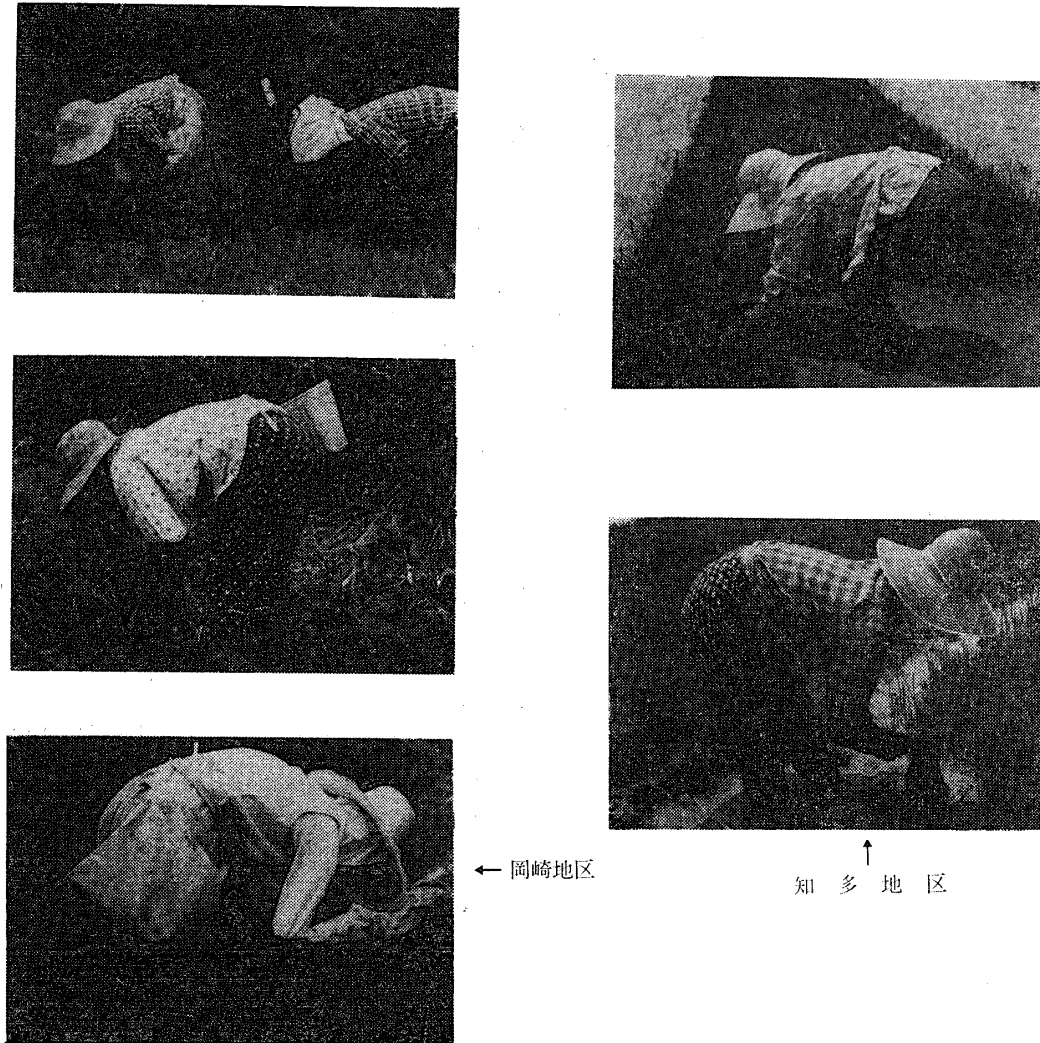


図5-1 田植・苗とり時の作業衣

(1) 岡崎・知多地区（愛知県）

この地域は近郊農家であり、生活改良普及員の指導も活発であるため、作業衣も大変近代的である。また、帽子も麦わら帽子でなく、軽い布製帽子を着用している。

(2) 瑞浪・恵那地区（岐阜県）

この地区では、割ほうエプロンをつけているのが特に目立った。それに、他の地区には見られない、すげ笠をかぶっていた。

また、恵那地区では、ひざまであるようなゴム長靴を着用している。平地に比べ山間部は田植を早い時期にするので、素足、ゴムたびでなく、このようなゴム長靴が用いられたものと考ええる。



恵那地区のゴム長靴

図5-2 岐阜県瑞浪地区



図5-3 三重県日永・四郷地区

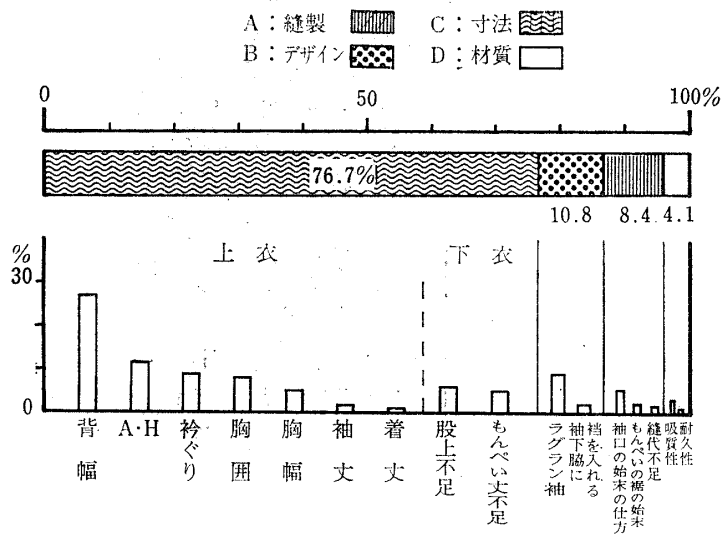


図6 作業衣の着にくい項目

(3) 日永・四郷地区
(三重県)

若い年代は他の地域と似た作業衣を着用しているが、高年者には図のように紺のもんぺに割ぼうエプロンと、上衣は紺の着物を着用しているのが目立った。

3) 作業衣の着にくい理由の項目について

作業衣の着にくい理由の項目を、A：縫製、B：デザイン、C：寸法、D：材質の4項目にまとめると、“図6”のとおり

である。

寸法が76.7%で第1位であり、次にデザインの10.8%，縫製の8.4%，材質の4.1%の順である。さらにこれらの項目の内容についてみると次のとおりである。

(1) 寸法について

上・下衣に分けて、上衣の着にくい理由で最も多いのは、背幅がきついが約30%であり、次にA・Hがきついが10%であり、次いで、衿ぐり、胸囲、胸幅、袖丈、着丈である。

下衣の着にくい理由で最も多いのは、股上が不足しているが6.1%であり、次いでもんぺ丈が不足である。

(2) デザインについて

最も多かったのは、ラグラン袖にした方がよいと回答したものが約10%であり、次いで袖下と脇につづけた褶を入れるとよいと答えたものもわずかに見られた。いずれも袖の形態についての意見である。

(3) 縫製について

袖口の始末の仕方はゴムがよいと回答したものが約5%であり、次いでスラックスの裾の始末も袖口と同様にゴムがよいと答えたものや、縫代不足のものもわずかながら見られた。

(4) 材質について

吸湿性のよいものがよいと答えたものが約3%であり、次いで耐久性のよいものがよいと答えたものが約1%である。

4) 作業衣の材質について

着用している作業衣の材質は何が多く用いられているかを上衣・下衣に分けて検討した。その結果を“図7”に示す。

(1) 上衣について

最も多く用いられている材質は木綿であり、そのうち、長袖ブラウスが31.7%であり、半袖

ブラウスが14.6%である。木綿は特に、吸湿、放湿性が大であり、触感もよく、作業衣としては最適である。次に木綿絣が14.1%であり、続いてテトロンが、長袖で13.7%、半袖で6.1%、以下ビニロン混紡絣、ナイロン、アセテートの順に出現が見られた。

純木綿絣とビニロン混紡絣とを比較すると、経済的にはビニロン混紡絣の方がかなり安価であり、また洗濯してもすぐに乾燥するという利点があり、最近ではビニロン混紡絣の製品がかなり多く出まわっている。

(2) 下衣について

もんぺは木綿絣の出現が68.2%と最も高率を示し、次にビニロン混紡絣は26.1%と木綿絣の約 $\frac{1}{3}$ の割合を示している。

また、同じ木綿でもジーパン使用率は5%程度であり、農作業衣にはあまりぴったりしすぎていて動的規制があるためか低利用率である。

5) 補助衣の使用状況と順位

田植時の補助衣の使用状況についてみると、1441例中、麦わら帽子の着用が最も多く78.1%であり、次に手甲が70.7%、雨よけとしてのビニール合羽が59.8%、割ぼうエプロンが58.2%で、以下手拭、ゴム長靴と、“図8”に示すとおりである。

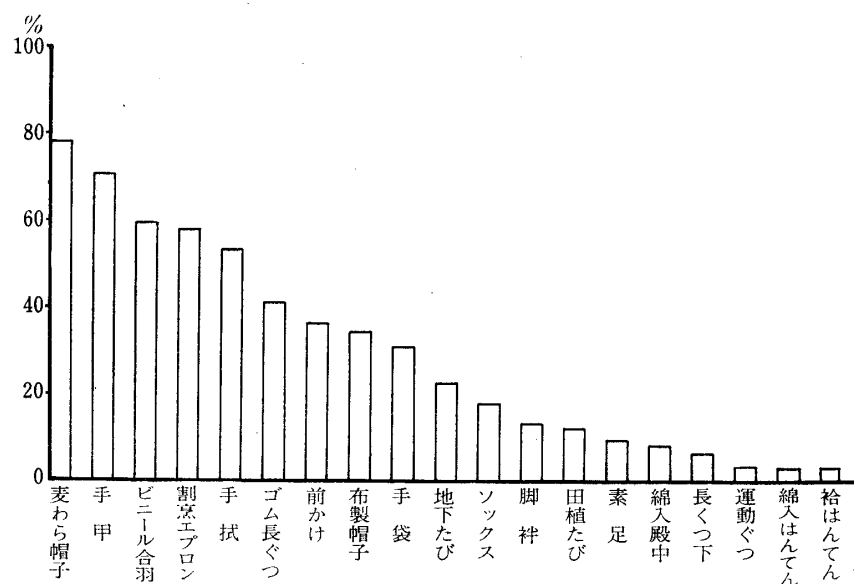


図8 補助衣の使用状況

2)一(2)項でも指摘したように、割ぼうエプロンを着用する場合がかなり多く見られた。これは、特に田植は泥がつき汚れやすい作業であり、身頃を汚れから防ぐということと、汚れても

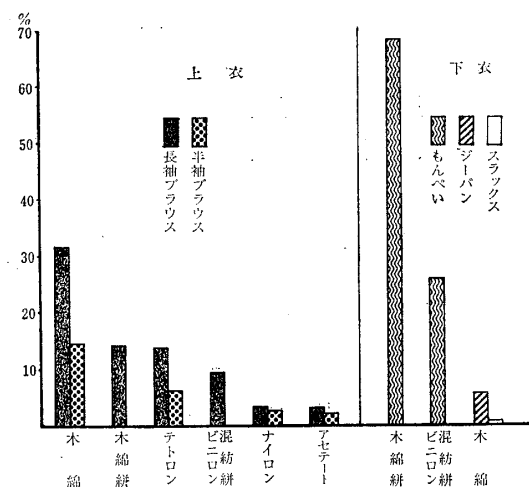


図7 業作衣の材質

割ほうエプロン1枚を洗濯すればよいということによるものと思われる。

6) 損傷部位と損傷順位

(1) 上衣損傷部位と順位について

上衣損傷部位と順位についての調査結果を“表1-1”に示す。

上衣については、損傷順位1位と書いたものが衿63名、袖126名、ひじ53名、肩40名とバラツキが見られたが、袖口が中でも群を抜いて多く見られた。

2位、3位、4位については全くバラツキがあり、順位の判定が困難であった。そこで荷重平均をする意味で、損傷順位1位には5点、2位は4点、3位は3点、4位は2点、5位は1点と、点数に段階差をつけて、それぞれ的人数に乗じて点数値を出し、各部位別にその合計点において数値の大なるものを損傷順位1位と判定した。

その結果、袖口が882点で1位、2位はひじ、3位は衿、4位は肩という順位であった。また、その順位差は1位と2位の差が159点、2位と3位の差は39点、3位と4位の間は58点で、2位-3位の間はあまり大差が見られなかった。すなわち、ひじのいたみと衿折り山のいたみ方ではあまり大差が見られないという結果であった。

(2) 下衣損傷部位と順位について

下衣については“表1-2”に示す。

すなわち、上衣と同様の方法によって検討した結果、損傷順位1位は894点のひざ、次に裾の413点、3位は379点の居敷当、4位が307点の内股という順位であった。

また、順位間の差をみると1位と2位の差は481点と顕著な差がみられ、2位と3位の間では34点、3位と4位間では72点差で2位・3位の部位の間にはあまり大差がみられなかった。

(3) 損傷理由について

“図9”に示すごとく、まさつによる損傷が最も多く254例中91例、全体の35.8%で、次が洗濯による布地と糸の弱りによる損傷が23.6%、3位がサイズが機能的に充分満足されていない状態のために、布の伸びに無理がかかり損傷するもの18.2%、4位が日光による脆化15.7%で、縫代が少ないためや、縫製が粗雑なために損傷するというものも多少みられた。

いずれにしても、既製品を買う時点で、その目的、用途に適する材質やサイズのものを選択することが必要である。

表1-1 損傷部位と損傷順位
(上衣)

部位	順位					計	順位
	1	2	3	4	5		
配点	5	4	3	2	1		
衿	63/305	33/132	29/87	24/48	2/2	584	3
袖口	126/630	47/188	12/36	14/28	0/0	882	1
ひじ	53/265	40/160	47/141	32/64	2/2	623	2
肩	40/200	20/80	43/129	55/110	7/7	526	4

表1-2 損傷部位と損傷順位
(下衣)

部位	順位				計	順位
	1	2	3	4		
配点	4	3	2	1		
ひざ	211/844	15/45	2/4	1/1	894	1
居敷当	22/88	53/159	54/108	24/24	379	3
裾	32/128	56/168	45/90	27/27	413	2
内股	27/108	19/57	36/72	70/70	307	4

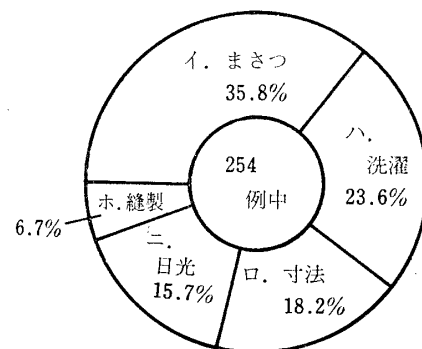


図9 損傷理由

7) 作業衣の購入方法

“図10”に示すとおり、商店で購入するものが最も多く43.4%であり、次に農協の39.8%で、この2方法によるものが全体の約83%をしめている。また、共同購入しているものが約13%見られ、行商は4%であった。

8) 古着作業衣の着用状況

着古した外出着又はふだん着を作業衣にしているものが非常に多くみられた。これを類別して“図11”に示す。

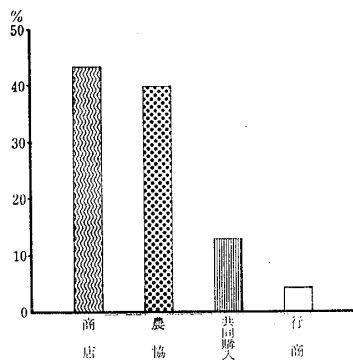


図10 作業衣の購入方法

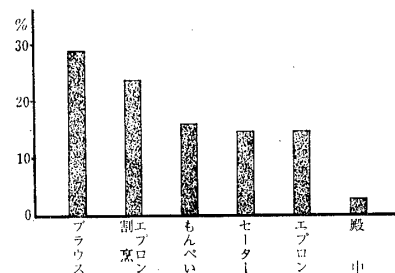


図11 古着作業衣の着用状況

専業農家では作業衣として新品を購入するが、兼業農家では古着を作業衣におろして着用しているものがほとんどである。

その種類は、ブラウスが最も多く約29%、次に割烹うエプロンが23%で、もんぺい、セーター、エプロンの3種は共に15%前後の使用率になっている。

9) 作業衣購入時の選択理由

作業衣を購入する場合、どのようなことに重点をおいて購入するかを形・色・材質・サイズ・値段の5項目について調査した結果を“表2”に示す。

順位1位と書いたものはサイズが176名、材質が37名、形が15名、色と値段は同数で7名ずつで、サイズを第1順位に選ぶものが圧倒的に多くみられた。

2位、3位、4位の選択順位については、表2のごとくバラツキがみられ、順位の判定が困難であった。

そこで、選択順位1位には5点、2位は4点、3位は3点、4位は2点、5位は1点と点数段階をつけて、それぞれの人数に荷重点数を乗じて点数値を出し、5項目それぞれの合計点を算出して、数値大のものから購入順位をつけた。

表2 購入時選択順位

部位	順位					計	順位
	1	2	3	4	5		
形	15/75	39/156	67/201	51/102	26/26	560	4
色	7/35	47/188	57/171	65/130	40/40	564	3
材質	37/185	76/304	44/132	32/64	23/23	708	2
サイズ	176/880	33/132	9/27	13/26	5/5	1070	1
値段	7/35	30/120	43/129	33/66	90/90	440	5

それによると、1位は1070点のサイズ、2位は708点の材質、3位は564点の色、4位は560点の形で、5位は440点の値段という順位であった。また、順位間の点差は1位～2位間は362点と大きく、2位～3位間の点差は148点、3位～4位間は4点、4位～5位間は120点という

結果である。3位と4位はほとんど同点に近く、色と形の間にはほとんど選択順位がつけられないものとする。

要 約

以上、東海地区における婦人用農作業衣についての実態調査の結果を要約すると次のとおりである。

1. 現在最も多く着用されている作業衣は、上衣が既製作業衣、下衣がもんぺいの二部形式のものであり、従来からの和服の二部式はあまりみかけなくなった。その他には既製ブラウスの古着を着用している場合がみられた。
2. 作業衣の着にくい理由は、1) サイズ面、2) デザイン面、3) 縫製面、4) 材質面の順序であった。特にサイズ面で、上衣の背幅がきつくて着にくいものが最も多く、より機能的な作業衣の検討が必要と考えられる。
3. 作業衣の材質は、上衣・下衣とも木綿がもっとも高率を示し、次いでテトロン、ビニロン混紡の順であった。
4. 田植時の補助衣の使用は、第1位が麦わら帽子であり、次いで手甲、ビニール合羽、割ぼうエプロンの順であった。
5. 上衣の損傷部位は、袖口、衿、肩という順位であり、下衣においては、裾、居敷当、内股の順であった。
6. 損傷理由については、まさつによるものが最も多く、次いで洗濯、3位がサイズによる不適合のための布の伸びによるものがみられた。
7. 作業衣の購入方法は商店で購入するものが最も多く、次いで農協、共同一括購入の順であった。
8. 古着作業衣の着用状況では、専業農家は新品を購入するが、兼業農家では古着を作業衣におろして着用しているものがほとんどであった。
9. 作業衣購入時の選択理由についてはサイズを第1順位に選ぶものが圧倒的に多く、次に材質、色、形、値段という順位で、値段よりもまず着やすいサイズの作業衣を購入している合理的姿勢がみられた。

参 考 文 献

- 1) 日浅治枝子：農業と経済，10，46～54（1973）
- 2) 日浅治枝子：服装文化，57，66～73（1959）
- 3) 酒井豊子：消費科学，16，13～19（1975）